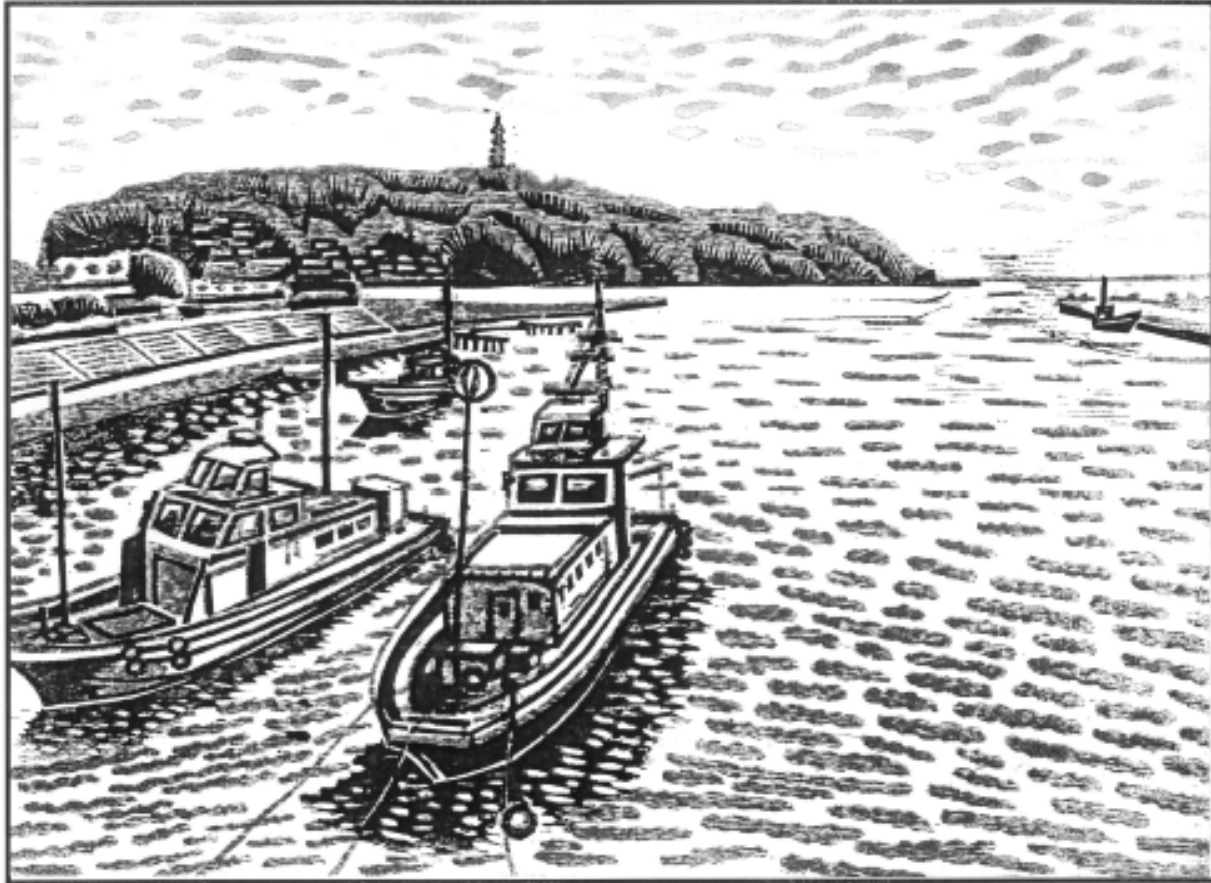


いたちかわらばん

通刊 90 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 23 春号



【版画 宗森英夫 通刊 15 号の版画を使用】 境川河口より江の島を望む

いたち川は流れて 江の島の海へ

科学技術の進歩のおかげで自然現象の仕組みが解明されたり確認されたりしています。

学んできた知識や常識が違っていた部分もあり、自分の思い込みに気づかされたりしています。昭和 61 年 11 月 3 日に誕生した栄区では当時区内を流れるいたち川をシンボルパーにするのが検討されました。水質や洪水などいろいろ問題があったいたち川を安全できれいな川にしたいと望む人達の活動を支援するために水辺愛護会等の団体が出来たり、環境調査のモニターを募集したり、いたち川全域の一斉清掃の呼び掛け等、いろいろな活動がされてきました。そのような区内の活動状況やいたち川の情報を多くの人に広報する取り組みとして「いたち川 OTASUKE 隊」が結成され今年で 25 年目を迎えています。

この「いたちかわらばん」に当初から関わってきたメンバーは今では高齢で、新世代への移行期を迎えています。多世代の声や考えを知るために、時を超えて経験を伝え、共有する出会いの場として、いたち川を活用する人が増えていくことを願っています。

楽しい川遊びの思い出を子供たちや孫に伝えること、川の危険や水の怖さを伝えることも大事なことです。多くの人の見守りの中で、次世代を担う人々が体感しながら時間を共有して育つことを願っています。

問題を残しながらも水質は向上しつつあり、整備されたプロムナードは行き交う人々で賑わっています。あらゆる生命は環境の中で生まれます。新たな環境が創造されていくことを願っています。

(つづいす)

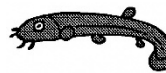
《小学生の環境学習》

横浜市立上郷小学校の3年1組は、総合的な学習の時間でいたち川の生き物について学んでいます。社会科のまちたんけんで行った六反町公園でいたち川と出会い、自分たちの住むまちの川にはどんな生き物がいるんだろうという思いから始まった学習です。6月ごろから川での活動方法を学び、いたち川に携わる方々にお手伝いいただきながら繰り返し川での観察活動をしてきました。観察ではヨシノボリやドジョウ、オイカワといった川の魚やシジミやカワニナといった貝類、多様なエビやサワガニなどが見られました。新しい生き物を見つけるたびに子どもたちと「この生き物は何だろう」と好奇心を膨らませています。

年が明けてからは観察で見つけた生き物を調べてまとめることでいたち川図鑑を作り、いたち川の魅力を自分たちから発信しよう準備しています。(教諭 里井 海椰)

《子どもたちの学習の感想》

- 流れがないと生きられないアブラハヤや種類によってひげの数が違うドジョウなどがいました。
- いろいろな魚を見つけられた。
- 魚がいっぱいいたのしかったです。
- 川に手をつっこむとシジミがとれる。
- 川の流れが少ないところにはザリガニが多くいた。
- ぷくぷくしているところに魚がいた。
- ザリガニがいてエビもいていろいろな魚がいた。シジミ、カワニナという貝もいた。
- 上郷地区センターのいたち川にカニがいた！
- いたち川にはたくさん魚がいてその中でも一番多い魚はエビです。
- いたち川に行ってエビや小さいカニがいることにびっくりした。
- いたち川に入るときれいな貝殻、生きている貝殻、空っぽの貝殻などいろいろな貝殻があった。
- 石をどかすとカニがいた。



- 網で石の裏に生き物がないか探すのが楽しかった。
- 魚が多いところと少なかったところがあった。
- 川の流れる速さや水のきれいさによってそこにいる生き物が違うことが分かった。
- いたち川にはドジョウがいるから川の水がきれい。
- 小カニやエビ、トンボがたくさんいて、鳥やカモもいるのでいたち川に行けば楽しむことができる。
- モツゴについて調べて、いろいろなことが分かりすぎないと思った。
- 初めてみる魚がいてびっくりした。でもヤマカガシとかいて少し怖かった。
- 魚はもともと好きだけど和久井さんから色々教えてもらってもっと好きになった。
- 夏のいたち川は気持ちがいい。
- 川は自分が大丈夫だと思っても危険なことがたくさんあるんだと感じた。
- ごみがたくさん落ちていて知ってがっかりした。

☆瀬上沢ウオーキング☆

右支川(瀬上沢)の源流となる瀬上池に向かって瀬上市民の森の尾根を歩いて、富士山の景観を楽しんでみませんか。

日 時：令和 5 年 3 月 22 日(水)
集合場所：天神橋バス停 or みどりが丘バス停
集合時間：天神橋 10:00 みどりが丘 10:40

天神橋バス停(10:25) → バス移動(船09) → みどりが丘下車 → 東上郷第一公園 → 馬の背休憩所 → 馬頭の丘休憩所 → 見晴台休憩所 → 梅沢山休憩所 → 漆窪休憩所 → 池ノ上休憩所 → 池の下公園 → 瀬上沢小川アムニテイ → 本郷車庫前(解散予定)

*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。 ※内容については、和久井(いたち川OTASUKE隊、080-3498-0552)まで

参加費：100円(保険料等)

持ち物：飲み物、雨具、昼食(自由)

参加人数：20名(先着順)

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで

住所・氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和 5 年 3 月 10 日(金)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19
(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127
(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係

発行年月
2023年2月

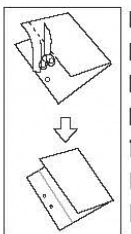
通刊 90 号

発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力：栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 45-895-1421

この部分を
切り取って
ファイルにす
ると便利です



切り取り線

「飯島市民の森」～夏のウォーキングレポート～

7月12日(火)、いたち川夏のウォーキングとして「飯島市民の森」を散策しました。ここは1972年に横浜市内の民地の自然緑地保全条例で、最初に市民の森に指定された森です。いたち川の水源地の森でもあります。右支川の飯島川は現在ほとんど暗渠化され「飯島せせらぎ緑道」が整備されています。本郷台駅前集合10時、応募参加者8名/区職員1名/OTASUKE隊3名、総勢12名で出発。西方向へ1kmほど。途中、街路や公園や住宅の樹木と草花について、花/実/葉の季節毎の色具合に加えて毒性や薬効などOTASUKE隊の和久井さんの解説に興味津々、久しぶりの環境学習の始まりです。

飯島市民の森入口の木陰で小休止、水分補給してからいよいよ登り坂に、白幡の森広場のあずまやで説明がありました。(いたちかわらばん88号に地図付きで詳しく紹介していますのでご覧ください) 広場は4ヶ所あり、上り下り一周は800m程です。この季節の花としてタムラソウ、オカトラノオ、実が赤いガマズミなど直前の写真で紹介されました。多くの植物、昆虫、生き物がいる豊かな森、四季折々楽しめる森となっていることが良くわかります。

市民の森愛護会や水辺愛護会のメンバーの皆さんがボランティアで清掃/草刈り/枝落しをしています。おかげさまで安全に散策ができるのです。「おつかれさまです。いつもきれいにさせていただいて、ありがとうございます」感謝の声掛けはお互い心が開き気持ちいいものです。(うめおきな)



道場丸広場ルート

このルートはウォーキングする人は少なく静かに散策が出来ますが階段が多いことから港南区から降りる逆コースをされる方が多いようです。

中尾根休憩所ルート

いたち川散策マップでは「瀬上市民の森コース」と紹介され主コースとなっています、登りきると「いっしんどう広場」では右に行けば水取沢市民の森、金沢市民の森へ、左に行けば港南区境のコースにはトイレが設置されています。

円海山の頂上には、横浜市で一番高い山であることからアンテナの塔があり横浜港を眺めることができます。

「いたち川の水源地」市民の森の紹介 第4弾!!

瀬上市民の森は、いたち川右支川の源流となる瀬上池を中心とした森で、「瀬上市民の森愛護会」「瀬上さとやまもりの会」によって散策路の管理や里山づくりに取り組んでいます。

瀬上市民の森

横浜市の中でも最大の広大な緑地の一角に位置して、面積は48haで市内の市民の森の中でも2番目の広さです。当市民の森は、港南区の「港南台さえずりの丘公園」、磯子区の「氷取沢市民の森」と「横浜市自然観察の森」に接しており、それらに通じるウォーキングルートの起点となっています。

瀬上池から流れ出る小川は横浜市内で最初に環境復元の小川造りとして瀬上沢小川アメニティが整備され、その後の市内の小川造りのモデルとなっています。

ウォーキングのルートは、右側の馬の背ルート、池の下広場手前を左に登ると道場丸広場ルート、瀬上池の入口を左に行くと中尾根休憩所からいっしんどう広場に至るルート、瀬上池上流から左に入ると大丸広場へ至るルートとなっています。

瀬上池

灌漑用水のために江戸時代末期の1783年(天明3年)浅間山の噴火によって生じた5年間続く天明の大飢饉の後1826年(文政9年)に造られた農業用の溜池です。

この地域の農業用地のための治水工事、新田開発が行われた記録があります。その時建設された溜池は、瀬上の池の他長倉の池、梅沢の池、阿夫名の池、関谷の池の他溜池が造られたようです。

瀬上沢小川アメニティ

瀬上池から流れ出る水路で、いたち川右支川(別名猿田川)で農業が行われていた頃には上川と呼ばれ水を供給する川で排水する川を下川(いたち川本川)と呼ばれていたようです。

馬の背ルート

瀬上市民の森ガイドマップの「光明寺―梅沢山ルート」の一部でバス停みどり丘住宅より馬の背休憩所から馬頭の丘休憩所までの尾根歩きで左下に瀬上池を眺めることができます。

私の川の思い出

私には、川で楽しく遊んだ思い出は残念ながらありません。夫は家の前の加勢川で遊んだ思い出を話しそちらに話します。熊本の市街地育ちの私には小さな小川が身近になかったのです。住宅街から街中に行くには大きな白川に架かる橋を渡らなくてはいけない様になっています。市電に乗っても歩いても大甲橋、長六橋、子飼橋等大きな橋を渡らないといけなのです。白川は一級河川でいつも水が多くゆくり流れる大きな川です。大甲橋は大きなアーチ型で真ん中まで登ると真正面に熊本城が見えて私たちを見守ってくれていました。その白川が昭和28年に大暴れをして大勢の方がなくなりました。

私は小学生でしたが、家の中に水が入ってきてとても怖い思いをしました。母の話では市内はあまり雨が降ってないのに阿蘇山に大雨が降ったので市内が氾濫したのだそうです。その時、白川が阿蘇山から流れてくる事を初めて知りました。

その後運転免許を取り、我が家から車で40分位で着く白川の上流に行くと私が見ている白川とは違い水深も浅くきれいなには驚きました。



さて夫の家の前に流れている加勢川の上流は私が子供の頃、母が良く連れて行ってくれた水前寺公園の横にあった湧水を使用したプールだったそうです。最近その事を知りました。私が遊んでいたプールの水が何時間位掛け川尻の夫の家の前に流れていたのかと想像しました。

川、水とは不思議ですね。その間に魚が泳ぎ、藻が出来、ゴミが流れ、鳥が遊び、人が遊びそして海に流れているのです。よく考えると私も川の上流(湧水プール)で遊んでいたのですね、嬉しくなりました。

(草本 和子)

表紙の版面について

初版から80号まで表紙の版面と81号からのペン字画は宗森英夫さんが自費で制作し、いたち川の表情をその季節に併せて、いたちかわらばんに掲載し、表紙に彩りを添えてきました。本人の希望によって、今後のいたちかわらばんの表紙を飾る版面は復刻版を掲載してまいります。

編集後記

今回紹介した地域は、横浜市最大の緑地で、栄区、磯子区、金沢区、鎌倉市に接しています。その中を通る古道は、鎌倉時代「鉄の道」として鉄を金沢の港に運んだルートであったようです。

いたち川の源流となっているこの緑地について情報があればご一報ください。

(水・人・子)